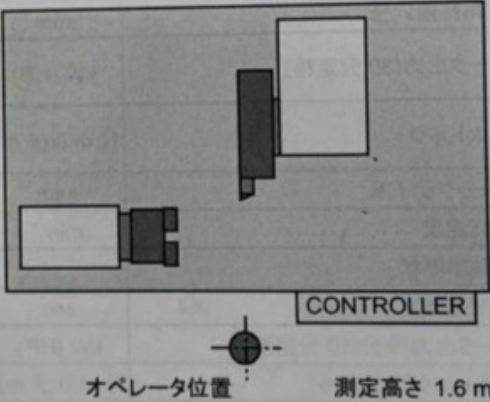


本機の主な仕様

1. QTN-200M/200MS

項目	単位	仕様		
		QTN-200M		QTN-200MS
		500U	1000U	
能力・容量	チャックサイズ	inch		
	最大スイング	mm	8	
	標準加工径	mm	φ675	
	最大加工径	mm	φ276	
	棒材作業能力 ※1	mm	φ380	
	主軸端と刃物台端面の距離	mm	φ65	
	両主軸チャック爪間の距離	mm	135~710	135~1220
	最大支持質量(チャック質量を含む) ※3	N (kgf)	—	575
第1主軸	主軸回転速度 ※2	min ⁻¹	2940 (300) [チャックワーク] 6860 (700) [シャフトワーク]	2940 (300) [第1主軸] 1470 (150) [第2主軸]
	主軸端形状		35~5000	
	加減速時間 ※4	sec	A2-6	
	主軸貫通穴径	mm	日本、アジア 3.2 日本、アジア以外 2.3	
	モータ出力(30分定格)	kW (HP)	φ76	
	最大トルク	N·m (kgf·m)	日本、アジア 18.5 (25) 日本、アジア以外 26 (35)	
			日本、アジア 326 (33.3) 日本、アジア以外 353 (36.0)	
第2主軸	チャックサイズ	inch	—	6
	回転速度	min ⁻¹	—	35~6000
	主軸端形状		—	A2-6
	加減速時間 ※4	sec	—	3.6
	モータ出力(5分/10分定格)	kW (HP)	—	7.5 (10)
	最大トルク(5分定格)	N·m (kgf·m)	—	75 (7.7)
			5	4
テール ストック	テールスピンドル穴型式	MT	550	1050
	移動量(テールストック)	mm	6867 (700)	—
	最大推力	N (kgf)	12 (全ポジションに回転工具取付可能)	—
刃物台	工具本数(ミル本数)	本	□25	
	工具サイズ	外径旋削	φ40	
		内径旋削	Max. φ20	
		回転ドリル	Max. M12	Max. M12 [第1主軸側] Max. M10 [第2主軸側]
		回転タップ	Max. φ20	
		回転エンドミル	0.2/0.6	
	割出し時間	one/full	25~4500 (オプション 6000)	
	ミル軸回転数	min ⁻¹	5.5 (7.5)	
	ミル軸モータ出力(10分定格)	kW (HP)	35 (3.6)	
	ミル軸最大トルク	N·m (kgf·m)	30/33	30/33/30
送り軸	早送り速度	X/Z/W (MSのみ)	m/min	400
		C	min ⁻¹	230 (225+5)
		X	mm	575 (570+5)
	移動量	Z		1085 (1080+5)
		W		575 (420+155) 585 (580+5)

機械本体の標準データ

項 目	単位	仕 様			
		QTN-200M	QTN-200MS		
		500U	1000U		
		160	230	160	
その他	クーラントタンク	L	日本、アジア 30.65/35.90 日本、アジア以外 40.34/46.20		
	電源容量	連続/30 分定格	kVA		
総 合	大きさ	心高	mm	1020	日本、アジア 2765 USA 2930 ヨーロッパ 2765
		全長 ※2		日本、アジア 2430 USA 2650 ヨーロッパ 2485	3290
		全幅		1780	
		全高		1840	
	フロアスペース ※2	m ²	日本、アジア 4.33 USA 4.72 ヨーロッパ 4.42	5.86	日本、アジア 4.92 USA 5.22 ヨーロッパ 4.92
	機械質量	kg	4900	5600	5100
	騒音値(LWA)	dB		79.8	
	不確定値(K)			4	
	測定条件				1. 主軸回転数 4000 min ⁻¹ (チャックによるワーク保持) 2. 送り軸駆動 3. タレットインデックス作動 4. チップコンベア ON 5. テールストック未使用
	測定方法				EN-12415/12417/12478, ISO230-5
騒 音	測定位置				 測定高さ 1.6 m (注) この機械の空気伝導騒音の主音源は下記を含む ・主軸ドライブ ・送り軸ドライブ ・タレットインデックス ・チップコンベア

注記: 提示した騒音値は参考値であり、必ずしも安全作業レベルの値ではありません。作業者が実際にさらされる騒音環境は、機械自身の他に、作業部屋や他の騒音も含まれ、機械の数・他の隣接する次工程・作業者がさらされている時間にも影響されます。また、許容される作業への騒音環境も国により異なります。つまり、提示した騒音値と実際の騒音値には相関性がありますが、更なる予防措置が必要かどうかを判断決定するために、この提示した騒音値のみ信頼して使うことはできません。

以下に原文を示します。(EN-12415/12417/12478 の序文より)

The figures quoted are emission levels and are not necessarily safe working levels. Whilst there is a correlation between the emission and exposure levels, this cannot be used reliably to determine whether or not further precautions are required. Factors that influence the actual level of exposure of the work-force include the characteristics of the work room, the other sources of noise, etc. i.e. the number of machines and other adjacent processes, and the length of time for which an operator is exposed to the noise. Also the permissible exposure level can vary from country to country. This information, however, will enable the user of the machine to make a better evaluation of the hazard and risk.

※1 中空チャック BB08A0615 装着時。

※2 チャック仕様により異なります。

※3 ワーク保持装置の剛性・保持力は考慮されていません。

※4 中空チャックにて最高回転数の 85% (速度到達) です。負荷イナーシャにより加減速時間は変化します。